

平成21年3月31日

新宿区長

法人名 特定非営利活動法人 CAPユニット  
 所在地 東京都新宿区舟町12-24 グレイス四谷307  
 (フリガナ) モンマ オトミ  
 代表者氏名 代表理事 門馬 乙魅

## 事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

記

### 1 助成対象事業

事業名	CAP 提供による暴力防止の広報啓発事業				
実施日時又は期間	平成21年1月24日～平成21年2月25日				
対象者の範囲及び人数	<table> <tr> <td>当選団体児童</td> <td>125名</td> </tr> <tr> <td>当選団体の保護者・教職員・地域住民</td> <td>59名</td> </tr> </table>	当選団体児童	125名	当選団体の保護者・教職員・地域住民	59名
当選団体児童	125名				
当選団体の保護者・教職員・地域住民	59名				
事業内容	<p>人権概念を通して、子どもたちがあらゆる暴力から自分を守るための知識や方法を身に付ける CAP 子どもへの暴力防止（Child Assault Prevention）プログラムを、新宿区内の子どもたちやその周りの大人たちに知ってもらい、体験してもらうことを目的に3団体に実施。公募形式にして希望を募り、大久保第一保育園・落合第一小学校・淀橋第四小学校で、大人向けワークショップと子どもワークショップを実施した。</p>				
具体的な活動状況	<p>&lt;CAPワークショップ開催&gt;        開催日時と場所；        平成21年1月24日・28日・30日、2月6日 大久保第一保育園        平成21年1月29日、2月20日 落合第一小学校        平成21年1月30日、2月25日 淀橋第四小学校        参加人数；        保護者・教職員・地域の大人対象の大人向けワークショップ 59名        子ども対象の子どもワークショップ 125名        内容；実施三団体ともに、        各一回目；大人向けワークショップ        「あらゆる暴力から子どもを守るために大人のできること」        各二回目；子どもワークショップ        「子どもが暴力から自分を守る方法」        （保育園は、三日間かけて実施）        上記プログラム実施のために行った準備</p>				

	<p>プログラムを知ってもらうため、区内全部の保育園・幼稚園・小学校に、案内状・実施要項・申込用紙・CAP 紹介のリーフレットを作成し、8 月中に送付。</p> <p>10 月 7 日、応募してきた 6 団体の中から抽選にて 3 団体を決定。3 団体がワークショップ開催を広報するためのポスターとチラシを作成。</p> <p>3 団体がワークショップを実施するための段取り、各対象者に配布する手紙類、先生との打合せ資料、大人向けワークショップ用の配布資料、アンケート用紙、使用する備品などを入れた実施マニュアルを作成。</p> <p>担当者が実施マニュアルとポスターを持参し、3 団体の各担当者と打ち合わせ。</p> <p>地域の方々に向けて広報するためのチラシを、公共施設に置いてもらうように手配。</p> <p>ワークショップの実施（日程は上記の通り）</p> <p>子どもワークショップは、保育園（未就学児）は 3 学年あるうちの 1 学年、小学校は 6 学年あるうちの 1 学年を、実施団体が選ぶということで、下記の通りとなった</p> <p>大久保第一保育園；大人向けワークショップと子どもワークショップ 年長 1 クラス</p> <p>落合第一小学校；大人向けワークショップと子どもワークショップ 5 年生 2 クラス</p> <p>淀橋第四小学校；大人向けワークショップと子どもワークショップ 2 年生 2 クラス</p>
事業の成果	<p>子どもをあらゆる暴力から守る CAP プログラムを新宿区内の多くの人に知ってもらうことが、第一の目的。そのため、案内状を区内全部の保育園・幼稚園・小学校に配布し、公募制にした。CAP プログラムを知ってもらうためには、一応の成果があったと思う。</p> <p>ただし、応募が 6 団体と当初予定していた数より少なかったのは、年間予定が決まっている中で、2 学期後半から 3 学期にかけて授業時間中に行うことの難しさではないかと実感した。</p> <p>第二の目的は CAP プログラムを体験してもらうこと。3 団体に対して、子どもには一学年に向けて子どもワークショップを実施し、その保護者と教職員、地域の方々には大人を対象にしたワークショップを提供した結果、アンケート等では概ね好評で、次年度以降の啓発につながるきっかけ作りになった。残念ながら当初期待していたほど多くの保護者や地域の方々の参加には至らなかったもので、その点については、もう少し関心を持ってもらえるような工夫が必要と感じた。</p> <p>今後の活動については、これらのことを踏まえ、地域で連携して子どもを守るという視点をこれまで以上にアピールし、また、自治体にも理解を求めながら、広報啓発活動を工夫して進めていきたいと考えている。</p>

## 2 助成対象事業費内訳（実績）

収入	経費	積算根拠（内訳）		金額
	団体負担金			350,817 円
	参加費・資料代等			0 円
	その他の収入			0 円
	協働推進基金助成金	助成金申請額	350,000	円
	計	700,817		円
支出 （助成の対象になる事業費の内訳）	費目	決算額	内訳	
	会議費	18,900 円	四谷・若松地域センター、亀有地区センター等 15 回使用	
	宣伝費	119,400 円	リーフレット(2000 枚) 27,000 円、ポスター(大 30 枚・ 小 200 枚) 66,220 円、子どもカード( 1100 枚 ) 22,680 円、子どもワークショップ用ポスター(40 枚)3,500 円	
	リース費	0 円		
	消耗品費	25,619 円	封筒・のり・サインペン等事務用品 5,379 円 インクカートリッジ・トナー 20,240 円	
	謝礼	30,000 円	研修会講師料 3h×1 日×1 人 30,000 円	
	人件費	125,000 円	@4000×23=92,000 円 @2000×15=30,000 円 @1000×3=3,000 円	
	材料費	66,529 円	パネル作成費 40,000 円 ツール作成費 26,529 円	
	交通費	149,740 円	打合せ 延べ 8 回 計 60 名・事前準備 延べ 12 回 計 25 名・機材運搬 1 回 1 名・ワークショップ実施 延べ 8 回 21 名・記録 3 回 3 名・講師交通費 1 回	
	その他諸経費	92,939 円	切手 18,000 円、コピー 2,110 円、メール便 8,785 円 保険 23,714 円、シナリオ 29,480 円、文書印刷 7,140 円、宅急便 3,710 円	
助成対象事業費（小計）		628,127 円		
余 剰 金		35,937 円		
助成対象外事業費		72,690 円	記録用カメラ 29,760 円・FAX 電話機 25,630 円 人件費差額 11,000 円・講師料差額 6,300 円	
事業総額		700,817		円

### 3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた課題について、どこまで達成できたか。	今まで CAP プログラムを知らなかった方や、興味があっても実施できなかった団体等に、CAP プログラムを提供することによって、新宿区内での CAP ワークショップ提供活動の地盤ができたと考えられる。
地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。	今まで地域環境に不安を持っていた児童が、CAP ワークショップに参加後は、教職員や保護者に話をするできるようになり、学校 家庭 地域との連携を図るためのきっかけ作りにはなったと思う。子どもが暴力に巻き込まれていることを知った大人が、必要な専門機関につなげて早期解決が図れることを期待したい。
新たに気づいた課題は何か。	CAP ワークショップは、先生・児童がクラスの中でプログラムを共有することによって、その後のクラス運営にも有効にはたらくため、授業時間内で行う。年間行事が決まっている学校で、年度途中授業時間内に実施することの難しさを実感した。特に保育園は 3 日間を要するため、日程調整が難しかった。
理解者や支援者が広がったか。	CAP プログラムは難しい内容ではと考えていた方々にも、年齢にあった方法や表現でとてもわかりやすかったと理解してもらった。また、親子で内容を共有することの必要性も実感してもらえたことは、今後の活動に繋がると考えている。
事務局の執行体制は十分だったか。	事業の実施にあたり、計画予定表を早めに作成したことで、タイムスケジュールや担当者間の役割が明確になった。 また、事務スタッフ間の打ち合わせ会議、事務とワークスタッフとの打ち合わせ、事務担当者と実施団体担当者との打ち合わせ、ワークスタッフと実施団体の担任との打ち合わせ等をきめ細かくすることにより、執行体制を整えることができたと考えられる。
今回の事業を発展させた新たな事業としてどのような事業が考えられるか。	地域環境において不安を感じている児童・保護者・教職員が多いことを知り、CAP プログラムを実施することは、とても有効と考えられる。今後、新宿区内の子どもたちが小学校を卒業するまでに一回は CAP ワークショップに参加できるよう、区内全校で実施ができれば、更に学校 家庭 地域との連携を図ることができ、不安を少しでも取り除くことができるのではないかと考えられる。

その他	各団体が初めての CAP プログラムの実施に不安を感じないよう、事前説明のための資料作りには、何度もスタッフ間で会議・打ち合わせを重ね検討した。結果、実施団体から事業の進め方がとてもわかりやすかったと評価をいただいた。また、その資料をもとにした事前打ち合わせも、充実したものになったと考えられる。
-----	--

#### 4 活動の成果

- \* 事業の成果物(冊子など)又は、事業の開催時の写真など提出できるものがある場合は添付してください。
- \* 参加者の意見なども報告してください。

実施した3団体に関しては、CAPプログラムを受けた感想は好評で、特に大人ワークショップでは、「自分の子どもも子どもワークショップを受けさせたい」「今後も続けてほしい」等の回答が多く寄せられた。また、日頃の子どもの関わり方を考える良い機会になったとの感想も多く聞かれ、親子で参加することにより子どもと共有でき良かったと非常に高い評価が得られた。

先生も授業内でこのワークショップを行い、先生・児童がクラスの中で共有することが有効との理解を多く示したくれた。子どもワークショップでは、団体によって提供する学年が違ったが、発達段階に合わせた対応をすることで、どの学年においても楽しんで積極的に参加してもらえた。特に保育園(未就学児)では、小学校入学前のこの時期に行えたことは、保育園の園長先生にもとても高い評価をいただき、とても有効であると確信が得られた。

大人ワークショップの参加者は思っていた以上に少なく、集客はどちらの団体も難しかったようだが、参加者の方から、子どもだけでなく大人ワークショップに参加することの大切さを実感したという声を聞くことができ、そこから少しでも他の方へ広まってくれたらと期待している。

また、新宿区は他の区に比べてCAPプログラムへの取り組みが少ないことが残念だという声も多く聞かれた。地域内での事件・脅迫メール等で、集団下校を余儀なくされている現状が幾度とある中、新宿区だからこそ行政で全校にCAPプログラムを提供してほしいという要望もあった。

今後の活動については、この助成事業をきっかけに、新宿区内でもっとたくさんの団体にCAPプログラムを提供していきたいと考えている。